

## 第 5 回 平成 28 年熊本地震復旧・復興本部会議 次第

平成 29 年 4 月 14 日 (金) 8 : 45 ~  
於 : 防災センター (県庁新館 10 階)

1 開 会

2 黙 禱

3 本部長 (知事) 挨拶

4 復旧・復興プランの進捗状況報告

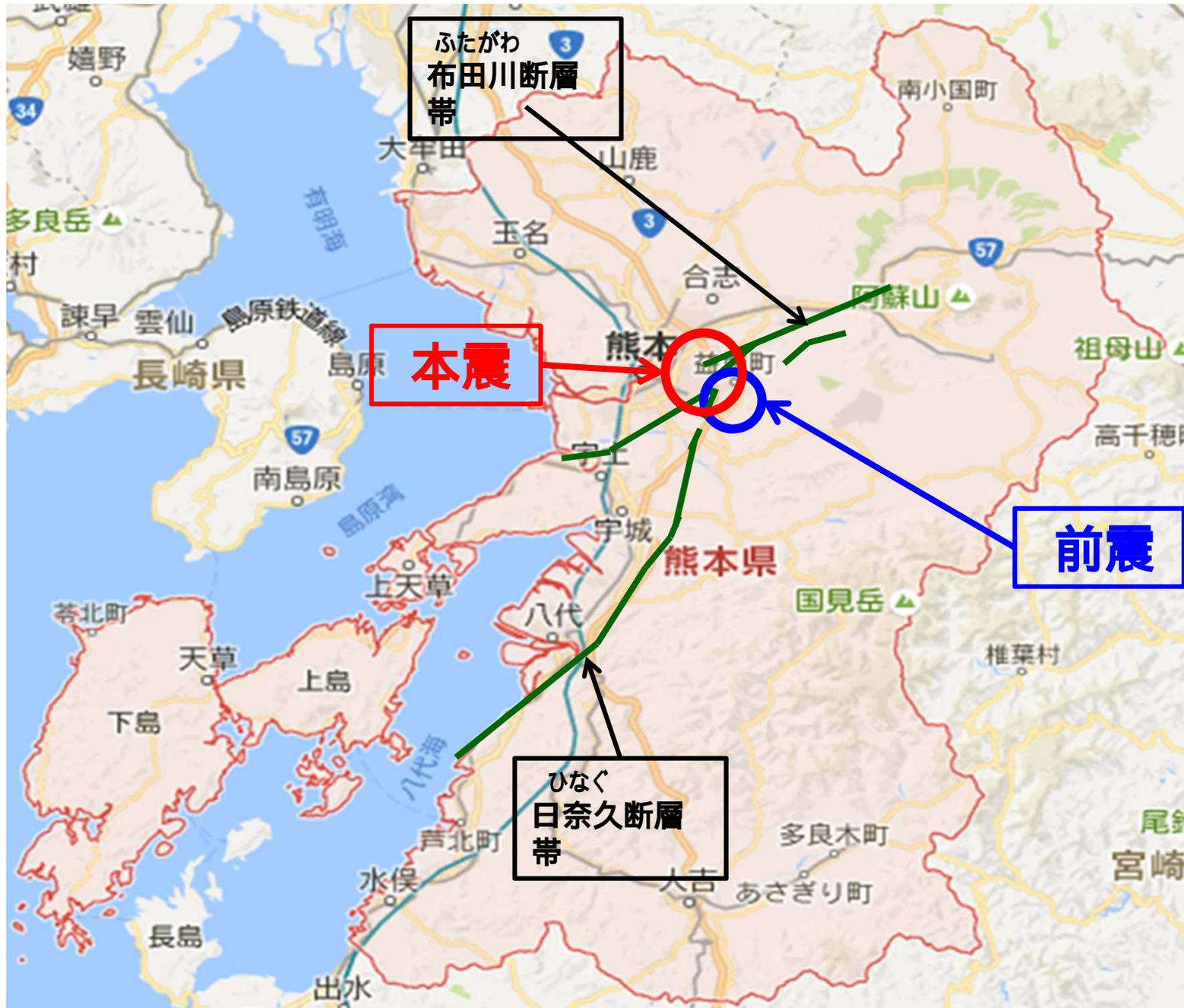
5 意見交換

6 閉 会

# 熊本地震からの復旧・復興の進捗状況

平成29年4月14日  
熊本県

# 1 平成28年熊本地震の発生状況



## 2 平成28年熊本地震の概要

		前震	本震
発生日時		平成28年4月14日 21時26分	平成28年4月16日 1時25分
震央地名		熊本県熊本地方	同左
マグニチュード		6.5	7.3
震度6弱 以上を観測した自治体	震度7	益城町	益城町、西原村
	震度6強	なし	熊本市、菊池市、宇土市、宇城市、合志市、大津町、嘉島町、南阿蘇村
	震度6弱	熊本市、玉名市、宇城市、西原村、嘉島町	八代市、玉名市、天草市、上天草市、阿蘇市、和水町、菊陽町、御船町、美里町、山都町、氷川町

### 3 熊本地震の規模、県民への影響

震度6弱以上の地震が7回、うち震度7は28時間内に2回発生(観測史上初)  
震度6弱以上の大地震に見舞われた県民は本県人口の83%に及び、少なくとも  
県民の10%以上が避難(阪神・淡路大震災の約2倍)

**熊本地震の規模、県全体に与える影響は、阪神・淡路大震災級  
～未だ余震活動が活発であり、県民生活・経済の早期復旧の大きな足かせ～**

#### 地震・被害の規模

熊本地震の余震は平成29年3月31日現在で4,284回以上。

	震度6弱以上	余震 発災から15日間	被災市町村人口 (震度6弱以上)	最大避難者数 1
熊本地震	7回 うち震度7が2回	2,959回	約148万人 ( <u>県人口の約83%</u> )	約18.4万人 ( <u>県人口の10.3%</u> )
阪神・淡路大震災	1回	230回	約232万人 (同42%)	約31.7万人 (同5.7%)
新潟県中越地震	5回	680回	約38万人 (同16%)	約10.3万人 (同4.2%)

1 避難者数は、指定避難所内の人数であり、避難所以外の車中泊等の人数は含まれない。

## 4 被害の概要 (H29.3.31時点)

現段階の速報値であって、確定値ではありません。

### (1) 人的被害

人的被害は、計2,901人

死者	224人
重傷者	1,128人
軽傷者	1,549人
計	2,901人

(死者の内訳)

地震による直接死 50人  
いわゆる関連死 174人

### (2) 住家被害

住家被害は、約18万9千棟

	被害棟数
全壊	8,667棟
半壊	33,585棟
一部損壊	146,827棟
計	189,079棟



## 5 平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン

### 復旧・復興の基本方針

# 平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン (平成28年8月3日策定)

### 復旧・復興の3原則

被災された方々の痛みを最小化する  
単に元あった姿に戻すだけでなく、  
創造的な復興を目指す  
復旧・復興を熊本の更なる発展に  
つなげる

# 5 平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン

## 基本理念

県民の総力を結集し、将来世代にわたる  
県民総幸福量を最大化する

## 熊本の将来像

災害に強く誇れる  
たから  
資産を次代につなぎ  
夢にあふれる  
新たな熊本

### Hope (夢)

将来が夢にあふれ、希望に満ちている熊本

### Safety (安全・安心)

災害に強く、安全・安心に生活できる熊本

### Pride (誇り)

熊本の宝が継承され、誇りに満ちた熊本

### Economy (経済的安定)

経済的に安定し、躍動する熊本

# 5 平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン

## 取組みの基本的方向性

痛みの最小化（応急復旧）

創造的な復興（Build Back Better）

未来の礎の構築

熊本の  
将来像

### 『くらし・生活の再建』

被災者に寄り添い、すまい、医療・福祉、教育など県民生活を再建

『 安心で希望に満ちた暮らしの創造  
～安心・希望を叶える～ 』

### 『社会基盤の復旧』

道路・鉄道、阿蘇・熊本城、防災拠点など「くまもと」の基盤を再生

『 未来へつなぐ資産の創造  
～未来の礎を築く～ 』

### 『地域産業の再生』

風評被害対策の実施、観光産業、農林水産業、商工業などを再生

『 次代を担う力強い地域産業の創造  
～地域の活力と雇用を再生する～ 』

### 『交流機能の回復』

熊本港、八代港、阿蘇くまもと空港などの復旧と機能を強化

『 世界とつながる新たな熊本の創造  
～世界に挑み、世界を拓く～ 』

復旧  
復興  
プラン

災害に強く誇れる資産を次代につなぎ  
たから  
夢にあふれる新たな熊本

# 6 ロードマップ(28項目)

## (1) 安心で希望に満ちた暮らしの創造

- 1 生活の支援・住まいの確保
- 2 医療・福祉提供体制の立て直し
- 3 災害廃棄物の早期処理と体制強化
- 4 児童生徒の心と学力のケア及び防災教育
- 5 学校、体育館等の復旧と機能強化
- 6 南阿蘇村立野地区のコミュニティ再生
- 7 東海大学農学部のア蘇キャンパスの再開支援
- 8 被災宅地の復旧支援
- 9 住宅の耐震化対策

## (2) 未来へつなぐ資産の創造

- 10 熊本と阿蘇をつなぐ道路の復旧（国道57号・阿蘇大橋・俵山ルート）
- 11 道路ネットワークの早期復旧と強靱化
- 12 阿蘇山上施設の再開に向けた基盤整備
- 13 南阿蘇鉄道の復旧
- 14 J R 豊肥本線の復旧
- 15 熊本都市圏東部地域の復興
- 16 熊本城をはじめとした歴史・文化の再生・継承

## (3) 次代を担う力強い地域産業の創造

- 17 産業再生とイノベティブな復興
- 18 地域経済を支える商業・サービス業等の復興
- 19 観光産業の早期回復と新たな観光戦略の展開
- 20 復興を担う人材の確保・育成と若者の県内就職促進
- 21 農地・農業用施設の早期復旧及び大区画化や農地集積と併せた基盤整備
- 22 大豆への作目転換を機とした営農体制の強化
- 23 被災畜産農家の復旧と地域ぐるみの復興による生産基盤の強化
- 24 C E や選果場などの共同利用施設の復旧・再編と災害時補完体制の構築
- 25 農業生産を支える労働力確保対策と産地づくりの推進
- 26 木造住宅のイメージ回復と新たな工法を活用した復旧・復興

## (4) 世界とつながる新たな熊本の創造

- 27 港湾施設（八代港等）の整備
- 28 国際スポーツ大会等を通じた復興する熊本の世界への発信

# No.1 生活の支援・住まいの確保

**避難所**  
H28.11.18閉鎖

**仮設住宅**  
・ 応急仮設住宅 : 4,179戸、10,985人が入居 (H29.3月末現在)  
・ みなし仮設住宅 : 14,621戸、33,685人に提供 (H29.3月末現在)

**住まいの再建**

## 「あたたかさ」「ゆとり」「ふれあい」のある応急仮設住宅の整備・みなし仮設住宅の提供

断熱性、遮音性を向上



県産木材、県産畳の使用

県産木材を使用した  
木造の集会所を整備



応急仮設住宅 (H28.11.14完了)  
16市町村、110団地 4,303戸 (うち木造683戸)

木造の「みんなの家」  
仮設住宅入居者の憩いの場等として84棟整備

みなし仮設住宅 (民間住宅借上げ)  
25市町村、14,621戸

## 「地域支え合いセンター」の開設 (H28.10月)



・被災者の見守り・巡回訪問などを実施  
専門機関等と連携して、被災者の生活再建を支援  
○訪問件数68,998件 (H29.3月末現在)

## 「こころのケアセンター」の開設 (H28.10月)



・中長期的な被災者の心のケアを実施  
訪問や電話等での相談支援・心の健康に関する普及啓発など  
○相談363件、支援者支援112件、人材育成6回・311人 (H29.3月末現在)

# No.1 生活の支援・住まいの確保

避難所

仮設住宅

住まいの再建

- ・自立再建住宅
- ・災害公営住宅 など

被災者の  
住まい・生活に  
関する意向調査  
(H29.3月実施)

被災者状況に応じた  
情報提供・相談対応

被災者の状況に応じた  
住まいの再建  
を支援  
(個別の支援計画  
作成等)

自宅再建 (くまもと型復興住宅など)

民間賃貸住宅

公営住宅 (災害公営住宅等)

地域支え合いセンターの活動等を通じた支援

## 「くまもと型復興住宅」による自立再建支援

## 災害公営住宅の整備

〔特徴〕

県産木材使用  
地震に強く、良質  
コスト低減に配慮  
県内工務店等が建設した  
木造住宅

〔県の方針〕

コミュニティの形成や高齢者等に配慮した  
熊本らしい災害公営住宅を整備

市町村の「設計業務」や「整備業務」を県でサポート  
12市町村でH31年度末までの建設を目指す

〔くまもと型復興住宅の提案数〕

モデル住宅3棟(テクノ仮設団地内)  
ガイドブック掲載55モデルプラン

〔災害公営住宅の整備に着手した市町村数〕

5市町村(H29.3.31)



# No.2 医療・福祉提供体制の立て直し

## 施設の復旧【災害復旧費補助による】

施設種別	被害施設数	災害復旧費補助協議施設数 a	着工数	進捗率 b/a
			b	
医療施設	病院	152	25	100%
	診療所	711	47	85%
	歯科診療所	439	21	81%
	合計	1,302	93	88%
社会福祉施設等	高齢者関係福祉施設等	750	160	80%
	保育所等	508	184	83%
	障がい者福祉施設	267	52	69%
	児童養護施設等	11	5	63%
	救護施設	3	2	67%
	合計	1,539	403	79%

(H29.3月末現在)



医療施設：外壁の亀裂



社会福祉施設：天井の破損



復旧後



復旧後

## 施設の復旧【グループ補助金による】

グループ種別	グループ数	申請予定者数	交付決定者数	単位：百万円
				交付決定額
医療法人・医療機関等を代表とするグループ	23	612	160	1,919
その他法人等を代表とするグループ	12	63	20	277
合計	35	675	180	2,196

上記は医療・社会福祉部会における数値 (H29.3月末現在)

# No.3 災害廃棄物の早期処理と体制強化

## 市町村の災害廃棄物処理の支援と広域調整

市町村における損壊家屋等の公費解体及び災害廃棄物処理の支援を行い、発災後2年以内（平成30年4月まで）に災害廃棄物の処理を終了する。

公費解体の進捗状況（H29.3末時点）

進捗率 59.0%（20,487棟解体済）

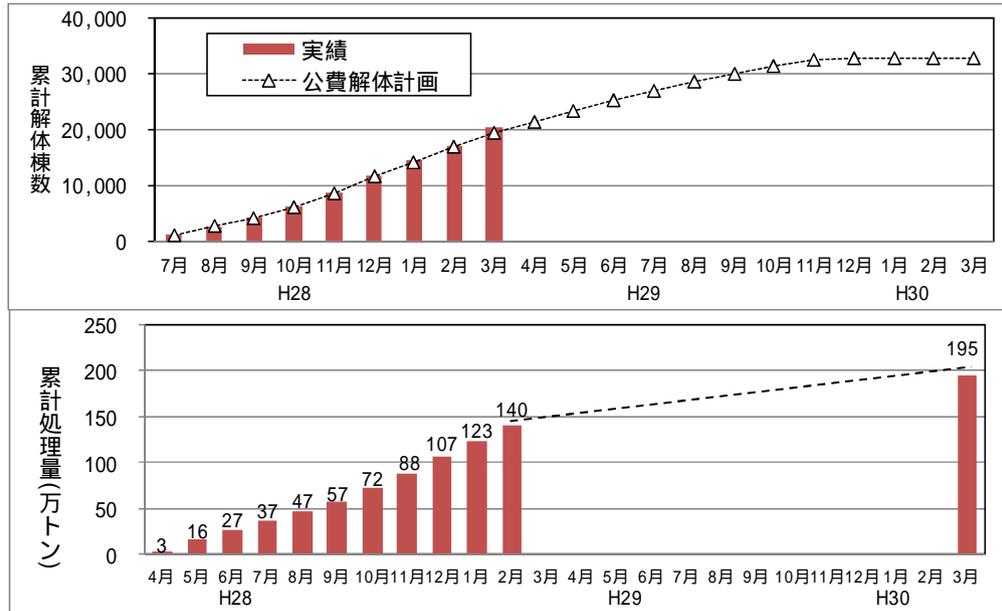
災害廃棄物処理の進捗状況（H29.2末時点）

進捗率 71.9%（140万トン処理済）

地震直後



現在



## 単独で災害廃棄物処理が困難な市町村への支援（二次仮置場）

市町村から災害廃棄物処理の事務を受託し、二次仮置場を整備し、破碎・選別などの中間処理を行い、最終処分施設等へ搬出中。

受託市町村：宇土市、南阿蘇村、西原村、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町

施設稼働状況：木くず（H28.9.30～）

廃瓦、コンクリートがら（H28.10.31～）

混合廃棄物（解体残さ）（H28.12.21～）

二次仮置場



# No.4 児童生徒の心と学力のケア及び防災教育

## 児童生徒の心のケア

スクールカウンセラー（SC）の緊急派遣等

公立小中学校や県立高校等に、災直後からの緊急派遣をはじめ、手話ができるなどの専門性を有するSCを派遣

私立中学・高校には、県からもスクールソーシャルワーカーを派遣し、心のケアが必要な生徒に対する支援を実施



（「くまもと・子どもの心の自己回復力を高める授業」風景）

**【心のケアが必要と判断された児童生徒数】**（熊本市を含む公立学校）  
地震直後4,277人（児童生徒の2.4%） → 現在1,247人（同0.7%）

## 児童生徒の学力の向上

休校措置等により、約7割の小中学校（熊本市を含む）で授業時数が不足

→長期休業日の短縮、土曜授業の実施等により授業時数を確保

学習支援のため、県内の小中学校等に91人の教諭等を新たに配置（H29の継続実施に向け国に要望中）

## 熊本型防災・復興教育の推進

『学校防災マニュアル作成の手引』を作成、平成29年度各学校でマニュアルの見直し

各学校に防災主任を配置

コミュニティ・スクール（CS）導入促進

教職員等の防災研修

経験者研修（初任、5年、10年）、管理職研修（校長、教頭、主幹教諭）等で防災研修を実施。兵庫県学校支援チーム（EARTH）養成講座へ職員を派遣。

**【目標数】平成29年度に全ての県立学校を防災型コミュニティ・スクールに指定**



学校防災マニュアル作成の手引

# No.5 学校、体育館等の復旧と機能強化

平成28年度

県立図書館及び県立青少年教育施設の復旧完了

平成29年度

県立学校施設の避難所としての防災機能強化を図るため、アクションプランを策定

平成30年度

県立学校施設及び県立体育施設、私立学校施設復旧完了

地震直後

熊本高校・校舎被災



現在

熊本高校・仮設校舎完成



【公立学校施設】

714校中、446校被災(約62%が被災)

272校( )中、123校復旧(約45%が復旧)

【私立学校施設】(幼保連携型認定こども園等を除く)

163校中、123校被災(約75%が被災)

70校( )中、32校復旧完了(約46%が復旧)

【県立図書館、県立青少年教育施設】

5施設全てが被災

5施設全てが復旧

【県立体育施設】

6施設全てが被災

6施設中1施設が復旧(但し、全6施設で(部分)供用再開)

現在

復旧に国庫補助を受けない学校は含まない。

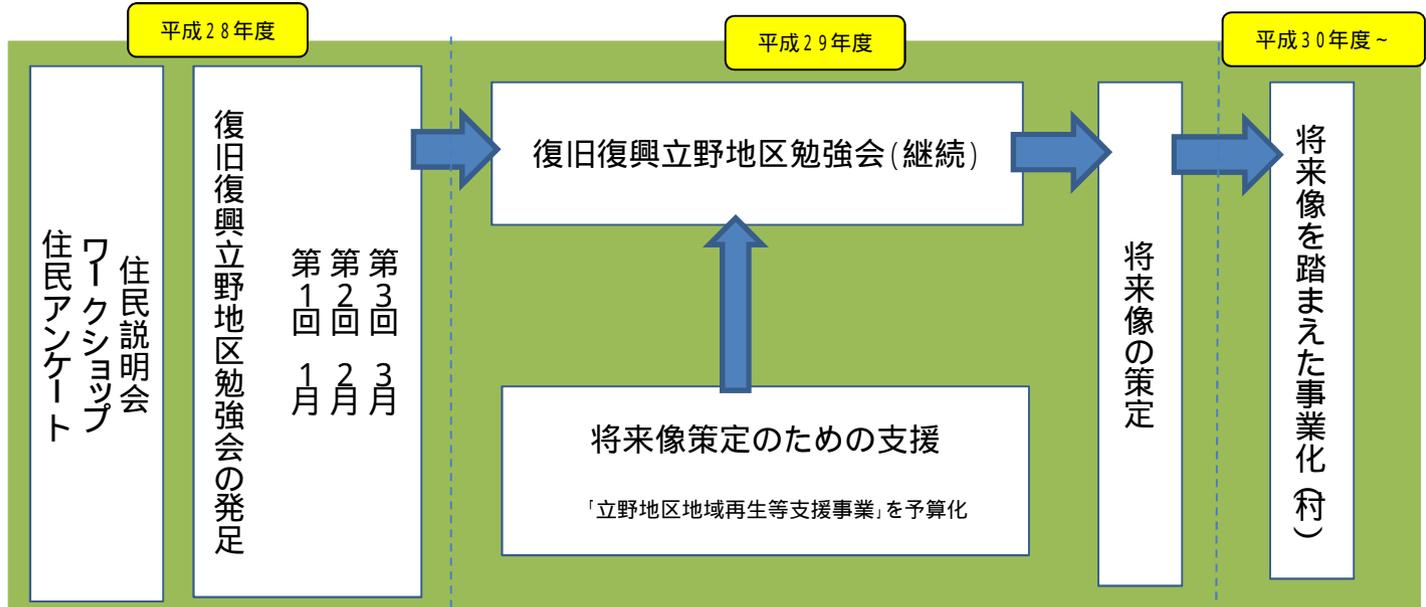
# No.6 南阿蘇村立野地区のコミュニティ再生

## 山腹の安全性、インフラの復旧状況の確認と継続した住民への寄添い

- ・県と村で連携して、インフラや崩落斜面の復旧見通し・復旧状況を確認
- ・住民説明会で復旧見通し・復旧状況等を説明するとともに、生活再建に向けた意向等を把握するためのアンケートを実施
- ・平成29年1月に、地域の将来像を検討する「復旧復興立野地区勉強会」を住民の代表により発足
- ・引き続きインフラ等の最新の復旧見通し・復旧状況を確認・整理し、住民に寄り添い、将来像の策定を支援



(住民説明会の状況)



(勉強会の様子)

# №7 東海大学農学部のア蘇キャンパスの再開支援

## 東海大学で決定された方向性に沿った取組みの支援

- ・県は南阿蘇村と連携して、東海大学へ阿蘇キャンパス再開に係る要望を実施
- ・平成29年1月、東海大学が阿蘇キャンパスをこれまでどおり現地に残す方針を決定
- ・農学部の授業を最低2年間は熊本キャンパスで実施する東海大学の方針を受け、県と大学で覚書を締結し、県有施設での農場実習等受け入れを開始
- ・今後、できるだけ多くの機能が阿蘇キャンパスに残るよう、県としても支援していく



(被災後の阿蘇キャンパスの状況)

### 【東海大学等と連携した復興支援の取組みについて】

- ・県は平成29年3月、キャンパス内の断層等を県が主体となって保存するとともに、新たなジオサイトとして南阿蘇再生の拠点となるよう、東海大学や南阿蘇村と連携して取り組む方針を表明



(県有施設での農場実習受入状況(農業大学校))

# No.8 被災宅地の復旧支援

## 公共事業(既存制度)の拡充

**A** + **B** + **C** = 約15,000件の支援を想定

### 熊本地震の特徴に対応した制度の拡充が実現

小規模造成宅地の被害に対応するための要件緩和  
(盛土高さ5m以上→2m以上)



約1,200件  
を支援 **A**

### 東日本並みの要件緩和・補助率高上が実現

- 要件緩和**
- ・人工斜面の対象追加緩和
  - ・対象がけ高の緩和(10m又は5m→3m)
- 補助率高上**
- ・造成地の滑動崩落防止や液状化防止事業の補助率高上(1/4又は1/3→1/2)

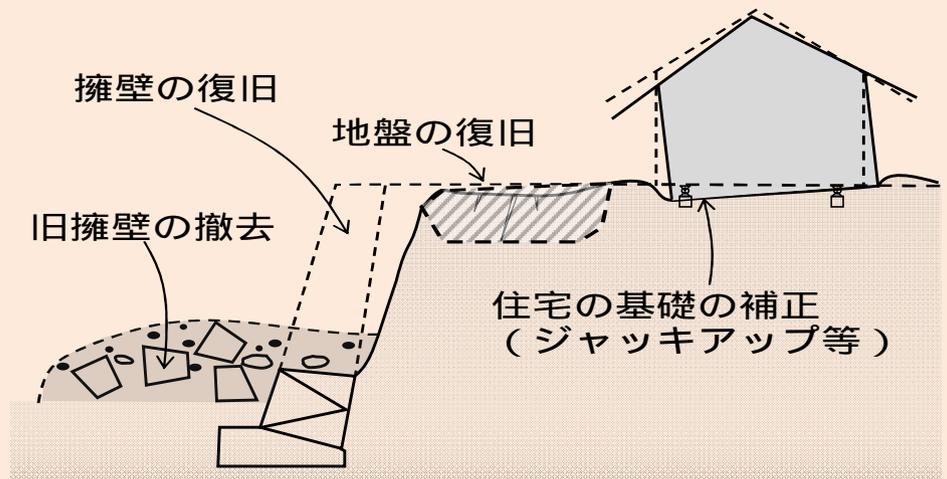
約3,800件を支援 **B**

## 復興基金を活用した熊本県独自の新たな支援制度を創設

公共事業の対象とならない被災宅地の復旧工事等に要する経費の一部を支援

上限額:1宅地につき6,333千円  
補助率:2/3  
(工事経費から50万円を控除した額に乗じる。)

約10,000件  
を支援 **C**



# No.9 住宅の耐震化対策

## 住宅耐震化のための補助制度を創設

全ての市町村で「耐震診断」を受けることができるよう市町村を支援  
→ H28年度～未整備であった18市町村でも活用できる新たな補助制度を創設

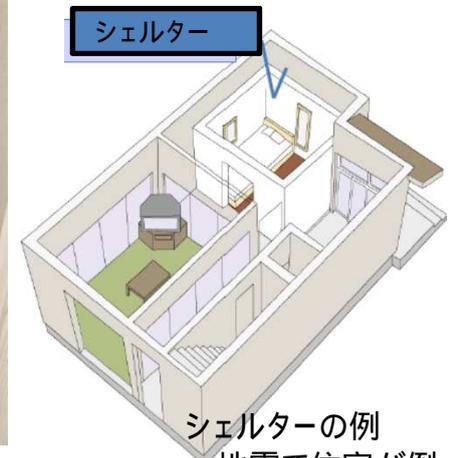
**【住宅耐震補助制度(耐震診断)が受けれる市町村数】**  
地震前 27市町 → 地震後 全45市町村(H29.3.31)

耐震性が不足する住宅を対象とした「耐震設計・改修」の補助制度を創設  
→ H29年度～準備が整った市町村から順次実施

将来の地震に備えた  
住宅の耐震化を後押し



天井、床を解体せずに壁を補強する低コストの改修例  
【写真】NPO耐震化アドバイザー協議会



シェルターの例  
地震で住宅が倒壊しても寝室や睡眠スペースを守ってくれる装置  
【図】京都府HP

## 技術者の育成

木造住宅の耐震診断、低コスト耐震改修工法等に関する技術者育成のための講習会を実施

**【技術者講習会の実施回数】**  
地震前 年1回 → 地震後 2回実施 合計229人参加



講習会の様子

# No 10 熊本と阿蘇をつなぐ道路の復旧

## 国道57号の早期復旧【国施工】

北側復旧ルートによる復旧が決定(H28.6月)

**【進ちょく状況】**  
H28.11月: 工所用道路に着手  
H29.3月: トンネル工事の施工会社が決定(工期設定)

現道部の復旧についても、調査・対策工法の検討を国に要望中。

## 国道325号阿蘇大橋の早期復旧【国代行施工】

道路法に基づく代行施工実施を国が決定(H28.6月)

**【進ちょく状況】**  
H28.7月: 阿蘇大橋の架け替え位置、橋梁形式が決定  
H29.3月: 橋梁の施工会社が決定(工期設定)

引き続き、早期の全線開通に向け、国と連携して対応。



地震直後

【写真】大規模な斜面崩壊により国道57号はJR豊肥本線及び国道325号とともに通行不能に。



現在

②車帰地区工事用道路工事(その2)工事 国土交通省HPより



地震直後



現在

②工所用道路工事実施中 H29.3.3現在

国土交通省HPより

【写真】大規模な斜面崩壊による国道57号及びJR豊肥本線の崩落とともに、国道325号阿蘇大橋が落橋し、通行不能に。



(阿蘇大橋の架け替え位置)

# No 10 熊本と阿蘇をつなぐ道路の復旧

## 主要地方道熊本高森線(俵山ルート)の早期復旧【国代行施工】

被災した橋梁6橋とトンネル2本を含む西原村小森～南阿蘇村河陰間(約10km)の復旧について、大規模災害復興法に基づく代行施工実施を国が決定(H28.6月)

平成28年4月16日被災 → 平成28年12月24日に暫定開通  
(約8か月で復旧)

### 開通効果

1か月後の交通状況より

俵山トンネルルートの交通量が約3割増加  
主要経路の所用時間が約20分短縮  
バス路線の回復により利用者が回復  
救急搬送車両の負荷が軽減(横揺れの区間の減少)



地震直後



復旧完了

提供: 国土交通省

(主要地方道熊本高森線(俵山トンネル)の復旧状況)

引き続き、早期の全線開通に向け、国と連携して対応。

## 代替道路の機能強化と維持管理

国道57号の迂回路として、ミルクロード(一般県道北外輪山大津線～主要地方道菊池赤水線)等の機能強化( )と維持管理を国と連携して実施

従来の雪氷待機に加え、国や県職員がミルクロードルートや俵山ルートに出動し、委託業者と24時間体制で積雪・凍結対策に従事するなど、冬期の体制強化を実施



待避所の設置(国施工)



左折レーンの設置(国施工)

(ミルクロードルートの機能強化)

### 【代替道路の機能強化(国が主体的に実施)】

待避所の設置(11箇所)、左折レーンの設置、ライブカメラの設置(22基)、交通安全施設等の整備

### 整備効果

「二重峠交差点(左折レーン)整備の1か月後の交通状況より

阿蘇市 大津町方面  
(赤水ミルクロード入口交差点～二重峠交差点間:延長約4.6km)

最大滞留延長:整備前 約3,400m 整備後 約50m  
最大所要時間:整備前 約28分 整備後 約14分  
所要時間分布:整備後約9割が10分未満に改善



融雪剤の事前散布状況

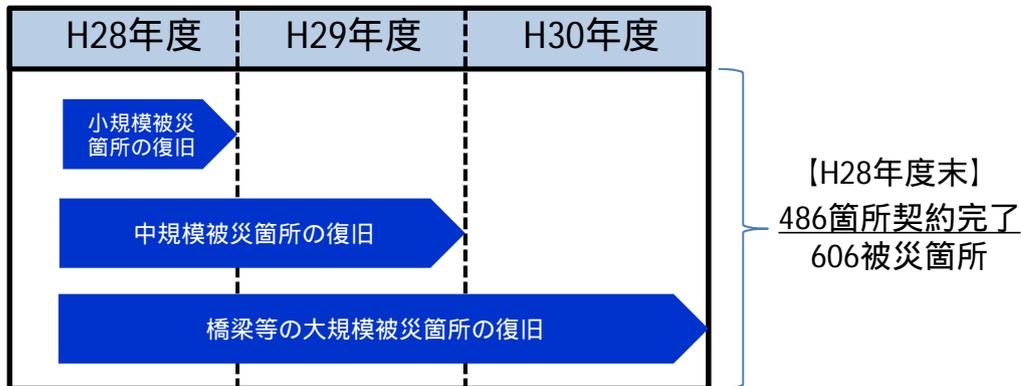


ライブカメラ設置状況

(俵山ルートにおける冬期対策の状況)

# No 1 1 道路ネットワークの早期復旧と強靱化

## 被災した道路・橋梁の早期復旧



復旧工事完了状況  
(小規模な被災箇所: 国道218号(宇城市))

### 【被災した道路・橋梁の復旧状況】

被災箇所 : 606箇所  
 工事契約完了 : 486箇所 (80.2%)  
 (H29.3.31時点見込み)



復旧工事(仮栈橋)施工状況  
(大規模な被災箇所:

八代不知火線(横江大橋))



# No 1 1 道路ネットワークの早期復旧と強靱化

## 九州の横軸縦軸となる幹線道路の整備促進

### 有明海沿岸道路(1期)

三池港IC連絡路の整備推進

### 熊本天草幹線道路

「大矢野バイパス」及び「本渡道路」の整備推進



【熊本天草幹線道路】  
(仮称)新天門橋の架設状況

### 南九州西回り自動車道

津奈木IC～(仮称)水俣ICの  
H30年度供用開始に向けて  
整備推進



### 中九州横断道路

- ・滝室坂道路の整備推進
- ・熊本市～大津町間の諸手続きの推進

### 九州中央自動車道 (九州横断自動車道延岡線)

小池高山IC～(仮称)北中島IC  
のH30年度供用開始に向けて  
整備推進



【南九州西回り自動車道】  
(仮称)水俣IC付近の整備状況

# No 1 2 阿蘇山上施設の再開に向けた基盤整備

## 阿蘇山上給水施設復旧工事

流出した阿蘇山上給水施設(南阿蘇村中松地区)の応急対応と新たな給水施設の設計を実施



【給水施設(水源)流失状況】  
南阿蘇村中松地区



【阿蘇山上への仮給水による応急対応の状況】  
阿蘇市と協力のもと、12月末から給水車により阿蘇山上の観光施設等へ仮給水を実施中(12~3月で累計396tを実施)。

平成29年3月設計が終了  
(阿蘇市永草地区の水源を活用した新たな給水施設を設置する。)



平成29年度早期に工事着手、29年度末に完了予定

## その他被災施設復旧工事

草千里駐車場に係る設計の実施、展望所や自然歩道等の復旧方法の決定



【阿蘇山上等公園施設の被災状況】

草千里駐車場については、設計終了平成29年度末に工事完了予定  
その他の阿蘇山上等公園施設については、国立公園満喫プロジェクト推進事業等を活用し平成29年度から着手し、平成29年度末に工事完了予定

# No 1 2 阿蘇山上施設の再開に向けた基盤整備

## 阿蘇登山道路の復旧

一般県道阿蘇吉田線(東登山道路)の応急対策と、本復旧工事を実施

工事施工例

### 地震直後



**被災状況**(平成28年4月16日)  
路肩及び路面が崩壊し、全面通行止めとなった

### 応急対策



**応急対策完了**(平成28年9月16日)  
道路啓開作業を行い、交通開放(発災から5か月で完了)

### 現在



**工事施工状況**(平成29年3月23日)  
平成29年5月工事完了予定

### 平成29年度の取り組み

【阿蘇登山道路】  
51箇所で被災

#### 東登山道路

11箇所では本格復旧工事に着手

#### 北、南、西登山道路

40箇所では順次復旧工事に着手

H29年8月完了予定

H29年度中の復旧を目指す

# No 13 南阿蘇鉄道の復旧

## 復旧工法等の検討

- ・平成28年7月～  
国直轄で地質・地盤等調査による被害状況の把握と復旧工法等の検討を実施
- ・平成29年3月末  
国の調査終了。今後、復旧工法等が決定される見込み

## 災害復旧事業の実施

- ・平成28年7月31日～  
高森駅～中松駅間の運行再開(現在、中松駅～立野駅間が運休中)

【運行本数(一日当たり):高森駅～中松駅間】  
地震前28本 → 地震直後0本 → 現在6本

- ・平成29年4月～  
南阿蘇鉄道再生協議会設立(予定)

### 【目的】

県と関係自治体、会社が一体となり、地域ぐるみで南阿蘇鉄道の復旧を推進するために設立  
南阿蘇鉄道の創造的復興に向けた動きを加速するため、国の調査結果を踏まえ、支援スキームなどを協議していく

### 【構成メンバー】

熊本県、高森町、南阿蘇村、山都町、西原村、大津町、南阿蘇鉄道(事務局:高森町、南阿蘇村各1名専任の職員を配置)

## 代替輸送手段の確保

- ・平成28年5月9日～  
緊急・臨時通学バス等の運行
- ・平成29年4月1日～  
産交バスによる新規路線(高森中央～大津駅南口間)バス等の運行



(国の調査の様子:第一白川橋梁)



(高森駅での出発式の様子)



(緊急・臨時通学バス)

# No 14 JR豊肥本線の復旧

## 鉄道復旧事業の実施

- ・平成28年4月19日～  
熊本駅～肥後大津駅間の運行再開
- ・平成28年7月9日～  
阿蘇駅～豊後荻駅間の運行開始(現在、肥後大津駅～阿蘇駅間が運休中)

【運行本数(一日当たり):熊本駅～肥後大津駅間】  
地震前110本 → 地震直後91本 → 現在110本

- ・平成29年3月～  
県治山工事の着手
- ・平成29年4月～  
JR復旧工事の着手

【豊肥本線復旧事務所の設置について(H29.4)】  
○肥後大津駅そばに「豊肥本線復旧事務所」を設置(JR九州社員が常駐)  
○豊肥本線の早期復旧に向け、現地の状況に応じた正確かつ迅速な対応を図る

## 代替輸送手段の確保

- ・平成28年5月9日～  
通学支援バス等を運行中



(阿蘇駅での出発式の様子)



(復旧に向けた調査の様子)



(通学支援バス)

# No 15 熊本都市圏東部地域の復興

## 熊本都市圏東部地域の創造的復興に向けた検討

- ・阿蘇くまもと空港を「創造的復興のシンボル」として、空港周辺地域の活性化につなげるため、平成28年12月に「大空港構想Next Stage」を策定
- ・その核となる空港について、コンセッション方式の導入による国内線・国際線ターミナルビルの一体的整備・耐震化を目指すことを表明し、事業主体である国へ要請。現在、国と積極的に調整を進めている
- ・今後も、県と市町村が密接に連携し、取組みを進める

(国の動き)  
 平成29年度予算に、熊本空港ターミナル地域の再建(国による国内線別棟ビルの整備を含む)に係る予算を計上  
 コンセッション導入手続きに係る国の総合アドバイザー業務を発注

### 『大空港構想Next Stage』の目指す姿

<b>空港</b>	<b>創造的復興のシンボル・起爆剤</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 九州中央に位置する阿蘇くまもと空港の創造的復興による交流人口増大</li> <li>➢ 渋滞や待ち時間が少ない、スムーズな空港アクセスの実現</li> <li>➢ 九州の安全安心を支える広域防災拠点の実現</li> </ul>	

空港の活性化を産業・暮らしに波及

<b>産業</b>	<b>新たな産業や雇用の創出</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 柔軟な制度運用による農商工連携・6次産業化の促進や地域資源を活用した新事業の展開</li> <li>➢ ICT等の活用による時流を捉えた新たな産業の創造</li> <li>➢ 空港やIC、阿蘇の玄関口としての利点を活かした観光産業の振興・発展</li> </ul>	

<b>暮らし</b>	<b>住みたい、暮らしやすい地域の実現</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 災害に強く、安全安心なまちの実現</li> <li>➢ 利便性が高く、生活しやすいまちづくり</li> </ul>	

国内線別棟ビル及び新国内線・国際線ビルの整備(イメージ)



# №15 熊本都市圏東部地域の復興

## 熊本都市圏東部地域の主要拠点エリアの創造的復興と道路ネットワークの強靱化

### 熊本地震による被災



地震直後の熊本高森線状況

- ・熊本地震により熊本都市圏東部地域では甚大な被害が発生
- ・益城町では、県道熊本高森線で沿線家屋倒壊等により一部区間で道路が閉塞する等、市街地が広範囲にわたり被災

### 復興計画の策定

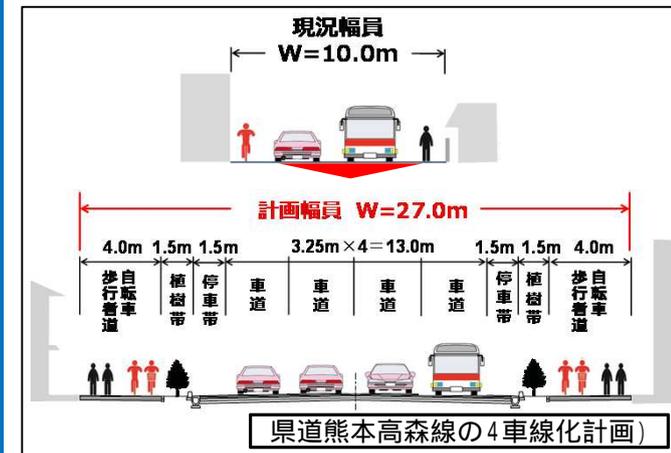


益城町復興計画(土地利用構想図)

益城町は『復興計画』を策定  
(県も人的・技術的支援を実施)

益城町と町議会は、復興計画で“まちの中心軸”に位置付けた熊本高森線の4車線化を県に要望

### 復興の加速化



県道熊本高森線の4車線化計画

創造的復興につながるまちづくりを加速させるため、県道熊本高森線(都市計画道路益城中央線)の4車線化にいち早く着手

### 平成29年度の取り組み

#### 【益城町の取り組み】

- 『益城町復興基本方針』策定(H28.7.6)
- 住民意見交換会(H28.7.28～8.20)
- 『益城町復興計画策定委員会』発足(H28.8.5)
- 『益城町復興計画(案)』策定(H28.11.11)
- パブリックコメント(H28.11.15～11.28)
- 益城町と町議会から県に熊本高森線4車線化の早期事業化を要望(H28.11.17)**
- 『益城町復興計画』議会承認(H28.12.20)

#### 【熊本県の取り組み】

- 県道熊本高森線4車線化方針決定
- 都市計画説明会(H28.12.9～12.12)
- 都市計画決定(H29.2.3)
- 国土交通大臣事業認可(H29.3.10)
- 事業着手の住民説明会(H29.3.27～3.29)

創造的復興のシンボルとなる  
まちづくりの加速化

# No 16 熊本城をはじめとした歴史・文化の再生・継承

【熊本城】北十八間櫓・五間櫓

地震直後



現在



【阿蘇神社】楼門

地震直後



現在



熊本城や阿蘇神社などの国指定文化財をはじめ、多くの国・県指定等文化財が被災。発災直後から国、市町村及び関係機関と連携して復旧を推進。

## 【被災件数】

国・県指定及び国登録 158件 / 693件 (約23%)



## 【復旧方針の確定件数】

国・県指定及び国登録 28件 / 158件 (約18%)

## 【熊本城】

復旧推進会議(国・県・市)や、実務トップ会議(県・市)などの会議において、整備方針等を検討  
「熊本城復旧基本方針」の策定(熊本市)。市への専門職員の派遣(平成29年度～)

## 【阿蘇神社】

11月に復旧工事に着手。楼門以外の重要文化財は平成29年度に竣工予定、楼門は平成34年度竣工予定

## 【その他の文化財、文化財復興基金等】

これまでに、経済界等から約26億5千万円の寄附。国等指定文化財から歴史的建造物等に至るまで所有者負担の軽減を図るとともに、国、市町村や文化財ドクター・レスキューといった関係団体と連携して復旧を推進。

# №17 産業再生とイノベーターな復興

## 被災した中小企業の早期復旧・経営再建

### 【グループ補助金による支援】

グループ補助金により、被災した中小企業等の施設や設備の復旧・整備、並びに商業機能の復旧促進を支援



### 【産業支援機関による支援】

よろず支援拠点(国設置、(公財)くまもと産業支援財団受託)において、専門スタッフが震災後の中小企業・小規模事業者が抱える経営上の様々な悩みの相談に対応

	来訪件数	相談件数
平成28年度 (H28.4 ~ H29.2)	4,556件	5,648件

# No 17 産業再生とイノベータイブな復興

## サプライチェーン復活・災害に強い産業集積

### 【サプライチェーンの復活】

- 県内大手企業は、各企業の懸命な復旧作業により、震災前の生産水準まで早期に回復。



金型落下・飛出しにより外壁損傷

復旧工事

復旧が完了した高棟外壁

### 【地域未来投資促進法案閣議決定】（ 今国会成立を目指し審議中）

- 企業立地促進法を改正し、地域経済を牽引する成長産業への投資を誘引
- 熊本地震からの復興を強力に後押しする特例が講じられる見込み

# №18 地域経済を支える商業・サービス業等の振興

## 商店街の復旧

### 商店街等施設等災害復旧補助事業

- ・総事業費3.9億円(国1/2・県1/4)
- ・事業期間H28～H29年度



倒壊したアーケード



復旧後

補助金の 交付決定	補助金確定	事業完了 割合
27事業者	13事業者	48%

## 経営サポート強化

- ・ワンストップ特別相談会の実施
- ・震災対応支援策を記載したガイドブックを作成

【倒産件数(H28.4～H29.2月末現在)】  
震災関連倒産は、7件にとどまる  
全体では32件(前年同月比48.5%)

## 販路開拓とブランド力強化

首都圏、福岡都市圏における、物産展や商談会の開催等を通し、県産品の認知度向上や販路拡大を図るとともに、震災からの復興をPRした。



福岡市での物産展・商談会

## 金融支援の取組み

- ・制度融資の新規融資枠を1,800億円追加
- ・信用保証料を全額補助、融資利率の引き下げ

### 【融資実績】

6,961件、約1,008億円 (H29.2月末現在)  
昨年度実績(約167億円)の6倍超

資金名	H28年 度当初 予算	4月 補正	7月 補正	8月 補正	12月 補正	追加枠 合計
金融円滑化 特別資金	130 億円	100 億円	300 億円	800 億円	500 億円	1,700 億円
小規模事業者 おうえん資金	70億円	100 億円	-	-	-	100 億円

# No 19 観光産業の早期回復と新たな観光戦略の展開

## 正確な情報発信、プロモーションの強化



**正確な情報発信**  
阿蘇地域のアクセスマップ(道路情報や観光情報を掲載)を県内外に配布

**プロモーションの強化**  
誘客促進キャンペーン「RE:SMILE」「Offろう。くまもと」を展開

## 観光産業の再生

**グループ補助金等の活用**  
建物や温泉の湯量減少等の被害を受けたホテル・旅館、温泉施設、商業施設等の復旧を支援

グループ補助金(観光サービス集積型)  
復興事業計画の認定(交付申請予定者数): 366事業者  
補助金の交付決定: 190事業者

## インバウンド対策

**国際クルーズ船バスツアーコースの開発**  
熊本城と阿蘇が中心であったバスツアーのコースを、アクセスが良好な県南地域へ分散

## 九州ふっこう割、阿蘇(中部・南部)応援ツアーの実施



あなたの旅が九州を元気にする。

おトクに阿蘇に泊まりに行こう!  
**阿蘇中部応援ツアー**  
2028年2月1日(土)～3月20日(祝) 1泊2日行程

モニターツアー料金の割引!!

- 交通宿泊旅行商品 2万円以上の商品 **25%割引** (上限12,000円)
- 宿泊商品旅行商品 1万円以上の商品 **25%割引** (上限10,000円)

阿蘇中部・南部地域(阿蘇市、熊本市、高森町、鹿野町、西原町)

旅行会社(国内)の店舗(Web予約)による配布  
※阿蘇市・高森町・鹿野町・西原町に在住の方は、お申し込みできません

お得に熊本の旅を楽しもう!

**九州ふっこう割(H28.7～12月)**  
目標: 38万人泊 実績: 約81万人泊

**阿蘇(中部・南部)応援ツアー**  
(H29.2.1～3.20)  
阿蘇中部・南部地域の旅館、ホテル等に宿泊するモニターツアーを実施

## 熊本観光復興会議の開催

**【意見集約のポイント】**  
基幹産業として県観光の基盤を整える  
チャンスを引き寄せて地元消費を拡大するようなインバウンド対応  
熊本の「食」で攻める  
熊本城、阿蘇観光の再生に向けたストーリーづくり

熊本観光復興会議委員(座長: 小野副知事)



袁文英様 大社充様 小山薫堂様 笹西真理様 島田万里様 星野佳路様

# №20 復興を担う人材の確保・育成と若者の県内就職促進

## UIJターン就職支援センターの設置

復興を担う人材を求める企業や、熊本へのUIJターン就職を希望する方の窓口として、平成29年1月13日に「熊本県UIJターン就職支援センター」を東京と熊本に設置



UIJ就職支援センター窓口

## 県内企業のPRやインターンシップの実施

県内大学生等を対象に、県内企業を巡る合同企業見学会を実施するとともに、インターンシップについては、マッチングイベントも実施。企業と学生の相互理解を深める機会を提供



合同企業見学会

### 【参加者数】

合同企業見学会 180人(全10回の延べ人数)  
インターンシップ 84人(マッチングイベントは延べ167人参加)

## ブライツ企業のPR、普及拡大

認定企業を紹介したガイドブックを作成して高校生等に配布するとともに、紹介動画を制作し、専用ホームページに掲載

また、新聞等の媒体を活用し、合同PRイベントを開催するなど多方面から普及啓発を行った



ブライツ企業認定証交付式



合同PRイベント

### 【ブライツ企業認定数】

39社(地震前) 108社(現在)  
平成27年度:39社、平成28年度:69社

## 熊本しごとコーディネーター事業の実施

若者の地元定着を促進するため、県外就職が多い工業系高校10校の全てに平成28年度から「熊本しごとコーディネーター」を配置。県内企業の情報や魅力を伝え、地域産業を担う人材の確保を目指す



### 【工業系高校生の県内就職率(2月末現在)】

平成27年度 28.8% 平成28年度 30.9%

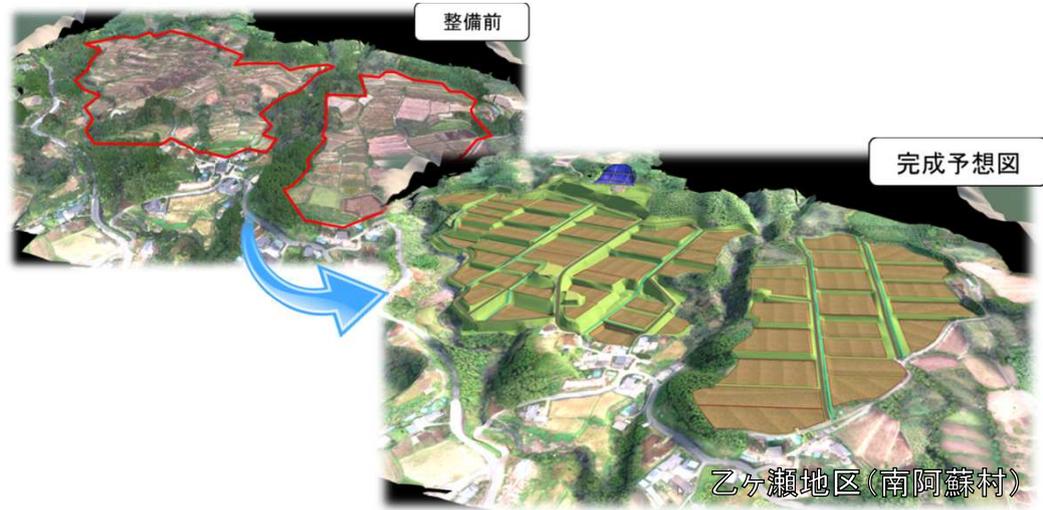
# No. 2 1 農地・農業用施設の早期復旧及び大区画化や農地集積と併せた基盤整備

## 農地・農業用施設の早期復旧 (災害復旧事業の推進)



樹園地法面の崩壊(熊本市)

## 農地復旧と併せた大区画化や農地集積 (創造的復興の推進)



乙ヶ瀬地区(南阿蘇村)

### 農地及び農業用施設の復旧の状況

- ・ 団体営災害査定件数: 5,007件  
28年度内着手 895件(うち、365件は完了)
- ・ 県営災害復旧地区数: 19地区  
28年度内着手 12地区(うち、1地区は完了)

災害復旧事業に加え、地域のニーズを踏まえ営農再開に向けた様々な支援を推進

- ・ 多面的機能支払いによる農家の自力復旧支援
- ・ 小規模な被災箇所に対する復興基金の活用

### 秋津、阿蘇谷、乙ヶ瀬の3箇所

地区名	取組概要	これまでの取組
秋津 (熊本市)	沈下等被災した農地の復旧と併せた大区画化 (地区面積: 167ha)	営農を最大限継続しながら復旧を進めるために、4期に分けた復旧計画を策定 ↳ <b>1期工事着手済み</b>
阿蘇谷 (阿蘇市)	地割れ等被災した農地の復旧と併せた大区画化 (地区面積: 68ha)	地区の整備計画と併せ、阿蘇大橋周辺復旧に伴う搬出土砂受入計画を策定 ↳ <b>復旧工事発注済み</b>
乙ヶ瀬 (南阿蘇村)	被災農地を含めた農地の大区画化 (ほ場整備) (取組面積: 26ha)	創造的復興に向けた地域の合意形成を進め、整備計画を策定 ↳ <b>H29着手を決定</b>

平成30年度までに農地及び農業用施設の復旧(創造的復興も含む)を完了

# No.2 大豆への作目転換を機とした営農体制の強化

## 被災した農地での営農継続・再開



水路復旧



水稻作付

## 土地利用型農業の構造改革の推進

(広域農場等への委託による作物転換)



水が確保できない水田での大豆播種



大豆の収穫作業

水の確保ができないなどの理由により大豆等へ転換した面積は、

約1,000ha程度  
(うち大豆約660ha)

大豆へ転換した水田のうち過半を広域農場等5組織が作業を実施。(ネットワーク大津、きくようアグリ、かしま広域農場、すぎかみ農場、秋津営農組合)

農家の自助努力、関係団体の取組みによって復旧が進むとともに、国・県・農業団体による作物転換支援など、様々な営農再開のための支援を実施

**1年以上作付ができない水田面積は200ha程度まで減少**

大豆を組み合わせた収益性の高い土地利用型農業の確立  
広域農場によるコスト削減への取組やその経営理念などを全県下に波及

# No 23 被災畜産農家の復旧と地域ぐるみの復興による生産基盤の強化

## 生産施設や飼養家畜、生産・流通体制の復旧



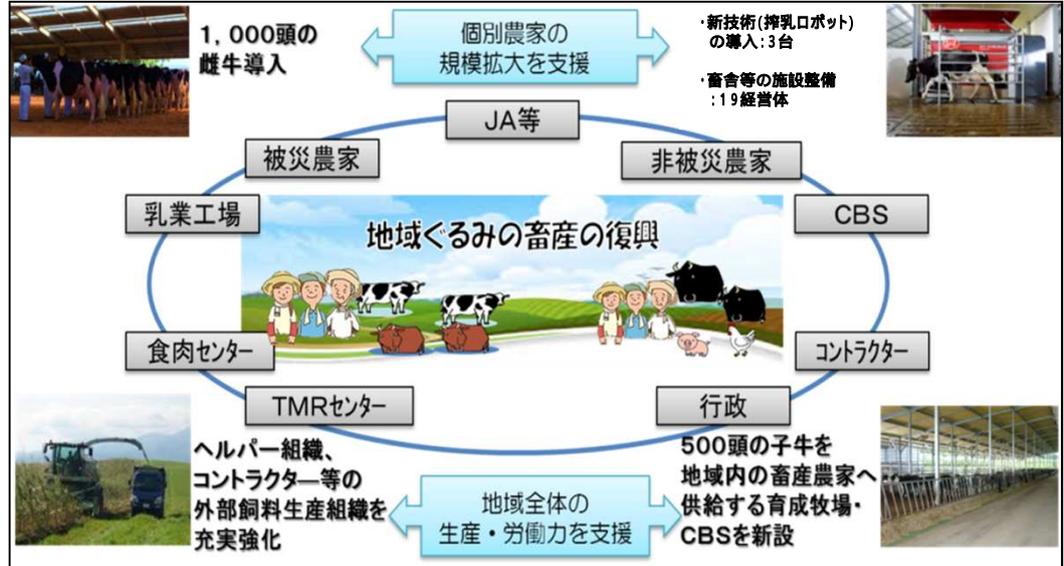
地震直後



現在

倒壊した畜舎の復旧

## 地域ぐるみの畜産復興



熊本、宇城、菊池、阿蘇、上益城等の地域で畜産農家が被災 【対象農家: 2,253件】  
 各種事業活用により畜舎等の復旧が進行中  
**【復旧進行の割合: 91.1%】**  
 被災した乳牛工場、家畜市場等の畜産物流施設は、機能を回復

畜産クラスター事業の活用  
 【施設整備32棟、搾乳ロボット3台、家畜導入1,075頭】

施設整備や家畜の再導入などを支援し、平成29年度末までに復旧を完了  
 畜産クラスターの仕組みを活用した地域ぐるみの復興を支援し、生産基盤の更なる強化を図る

# №24 CEや選果場などの共同利用施設の復旧・再編と災害時補完体制の構築

## 共同利用施設破損の復旧

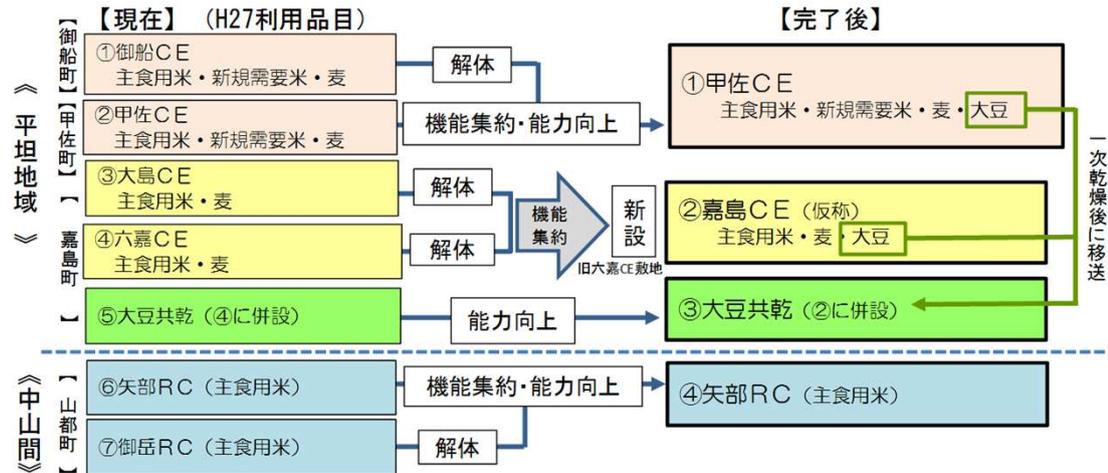
地震直後

現在



## カントリーエレベーターの広域的集約化

### JAかみましき管内のCE・RC等の再編計画



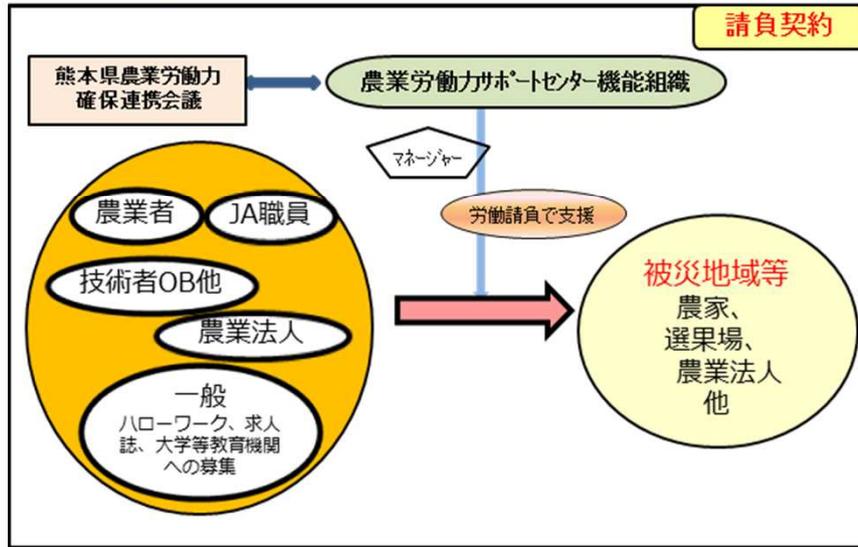
被災した共同利用施設147件のうち、補助事業を活用し、復旧を図る施設 103件  
( 残りは共済金などによる自力復旧)  
**【復旧進行の割合90%(93/103件)】**

3JA(JA熊本うき、JA菊池、JAかみましき)で、CE・RC等の再編整備を伴う改修事業を実施  
**16施設で実施、うち6施設は完了済み**

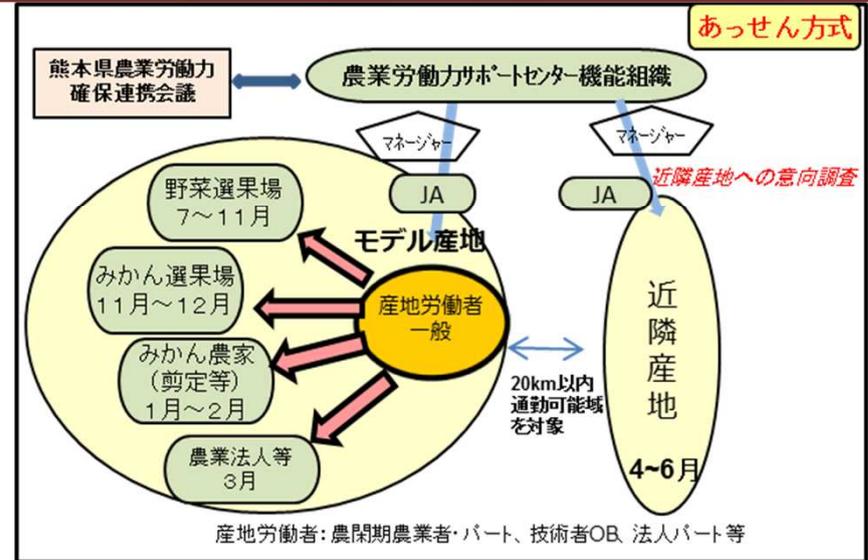
将来的な土地利用型農業を見据えた効率的な集出荷体制を確立するため、平成29年度までに広域的な施設の再編・統合を図る  
災害時の広域的な補完の仕組みを構築する

# No 2 5 農業生産を支える労働力確保対策と産地づくり

## 災害時に不足する労働力を補完する仕組みと体制の整備



## 労働力補完システムで生産力を強化し競争力のある産地づくりの推進



### 熊本県農業労働力確保連携会議の発足 (平成28年11月)

JA中央会による被災地域等の生産現場等で不足する労働力調査と労働力支援

JA中央会の無料職業あっせん事業所の資格取得や雇用支援マネージャーの配置等労働力サポートセンター機能の設置準備

平成31年度までに本県独自の労働力調整システムを確立。競争力のある産地づくりを進める

# №26 木造住宅のイメージ回復と新たな工法を活用した復旧・復興

## 応急仮設住宅等における木材利用



(木造仮設住宅と木材利用の状況)

日常的なコミュニケーションが生まれるよう、配置計画等を工夫して「みんなの家のある仮設住宅」づくりを推進

- ・ 県産木材を構造材、床、腰壁、玄関ポーチ、濡れ縁、スロープなどに活用。
- ・ 応急仮設住宅の集会施設としての「みんなの家」(全て木造)も整備。

くまもと型復興住宅と災害公営住宅などの木造化・木質化を推進。

【応急仮設住宅整備数】

16市町村 110団地 4,303戸(うち木造683戸)

## 木造に対する誤ったイメージの払拭



(パネルディスカッションの状況)

「熊本地震を受けて今後の木造住宅づくりを考える」をテーマに震災復興シンポジウムを開催(9/21)

- ・ 現代木造住宅の耐震性能に係る基調講演のほか、建築学会など学術研究者による被害調査結果(速報)の情報を提供。

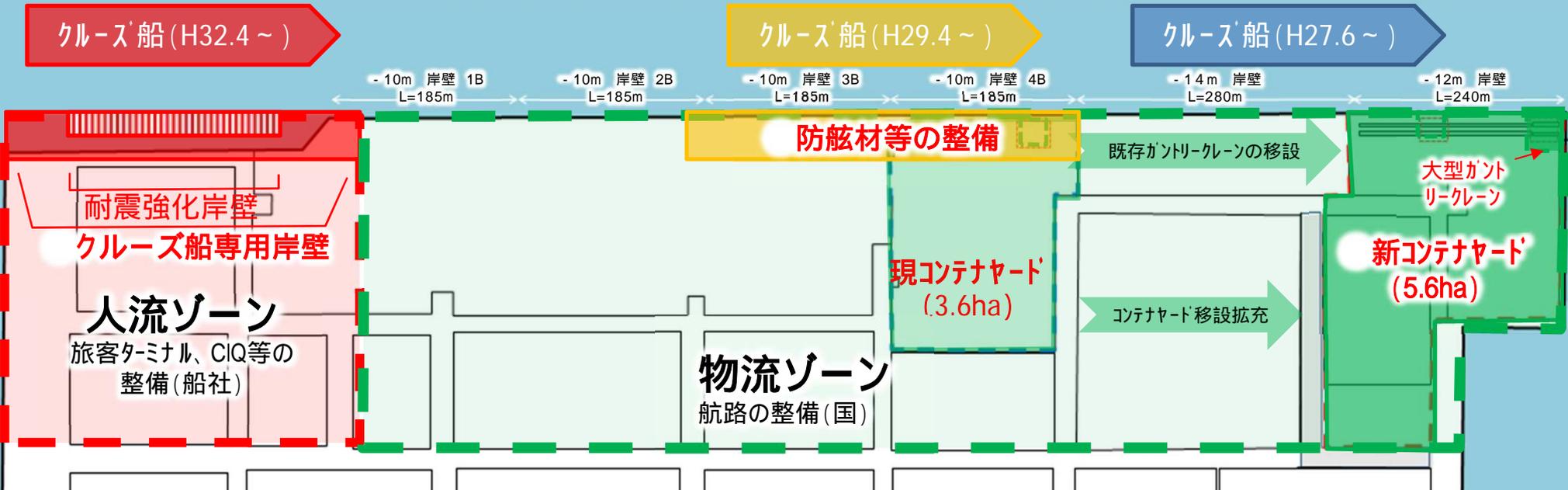
【参加者数】

市民、業界関係者等含め約500名

木造建築物の耐震性に関する信頼度を回復し、熊本県内の新規住宅着工における木造率を維持する

【平成27年の木造率 60.4%】

# No 27 港湾施設(八代港等)の整備



**耐震強化岸壁及びクルーズ船専用岸壁の整備**

**H29年度のクルーズ船寄港増に向けた受入環境整備**

**大型ガントリークレーンの整備、コンテナヤードの移設拡充**

平成28年度の取組み

【クルーズ船専用岸壁の整備】  
官民連携による国際クルーズ拠点形成する港湾に選定  
八代港の港湾計画の変更  
H29.3月末公示

【クルーズ船の寄港増に向けた施設整備】  
防舷材、係船柱の整備  
泊地のしゅんせつ  
国: H29.3月末完成  
【ソフト整備】  
・航行安全ルールの策定  
H29.3月末策定

【コンテナヤード】  
H29.3月工事着手  
(3.6haから5.6haへ拡張)  
H30.3月工事完成予定  
【大型ガントリークレーン】  
H29年夏頃据付け予定  
(3万t級のコンテナ船まで対応可能)  
既設ガントリークレーンをH30年度初旬に移設予定

H29年度に工事着手予定  
国: H32.3月完成予定

# №28 国際スポーツ大会等を通じた復興する熊本の世界への発信

## 国際スポーツ大会の熊本開催等に向けた取組み

2019女子ハンドボール世界選手権大会及びラグビーワールドカップ2019熊本開催の準備やプロモーションを進めるとともに、行政、民間を含めたオール熊本で国際スポーツ大会を盛り上げ、レガシーを構築していく体制を整えた。

### 国際スポーツ大会の開催決定

#### 【2019女子ハンドボール世界選手権大会】

パークドーム、アクアドーム等を会場に、平成31(2019)年11月30日～12月15日に開催

#### 【ラグビーワールドカップ2019】

- ・大会会場となる熊本県民総合運動公園陸上競技場の施設整備に着手
- ・国際テストマッチの熊本開催決定



カシオ



パークドーム



県民総合運動公園



(提供:スポーツイベント・ハンドボール)

### 東京オリンピック・パラリンピックキャンプ地誘致

- ・菊池市がノルウェーのボート・カヌーチームの事前キャンプ地に決定(基本合意書の締結)
- ・熊本スポーツキャンプ地等情報ガイド(英語版)を作成、県ホームページに掲載

### レガシーの次世代への継承

- ・県内の行政、報道、経済・産業、スポーツ等の各分野からなる熊本国際スポーツ大会実行委員会を設立。くまモンを国際スポーツ大会アンバサダーに任命
- ・レガシープログラム「くまもとハロープログラム」を策定

### 復興する熊本の世界への発信

#### 【海外における復興PRや支援に対する御礼】

フランスやアメリカ、台湾等を訪問し、地震からの復興を目指す熊本をPR。併せて支援への御礼を行った

#### 【「くまモンファン感謝祭2017 in バンコク」の開催】

昨年3月の香港開催に引き続き、今年はタイ・バンコクで開催(平成29年3月23日～25日)



フランス訪問



くまモン感謝祭

